

除草剤

第 10783 号

フレノック® 粒剤10

種類名：テトラピオン粒剤

特長

- ササ、ススキ、チガヤにすぐれた効果があります。
- 薬量によっては長い伸長抑制効果もあります。
- 眼や皮膚を刺激せず、いやな臭いもありません。

【有効成分】 テトラピオン 10.0%

【性状】 類白色細粒 【毒性】 普通物* 【危険物】 一

【有効年限・包装】 5年・2.5kg×6

*普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

フレノックは三井化学アグロ(株)登録商標です。

使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	テトラピオン
開墾後に栽培する樹木類	開墾地	ススキ	秋冬期～出芽初期	ススキ1株(平均株径30cm基準)当り15g(但し、10kg/10aまで)	1回	スポット処理散布	1回
		ササ		3～5kg/10a		全面均一散布	
すぎ(地ごしらえ、下刈り) ひのき(地ごしらえ、下刈り)	-	ススキ	秋冬期(但し土壌凍結前)	ススキ1株(平均株径30cm基準)当り15g(但し、10kg/10aまで)	1回	スポット処理散布	2回以内
とどまつ(下刈り)		ササ		2～4kg/10a		全面均一散布	
からまつ(下刈り)		ススキ		3～4kg/10a			
ぶな(地ごしらえ、下刈り)		ササ		2～3kg/10a			
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	チガヤ	生育期	10～20kg/10a	2回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面均一散布	2回以内
		ススキ ササ	秋冬期～出芽初期	5～10kg/10a			
		一年生イネ科雑草	雑草発生前～生育期	2～10kg/10a			

■ については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

使用上の注意

- (1) スポット処理の場合、ススキの株数が多い場合(3,000株/ha以上)でも、処理薬量は100kg/haを越えないようにし、また造林木の周囲半径60cm以内にススキ株がいくつあっても、10g以上は散布しないこと。
- (2) 開こん地、杉、ひのきに使用する場合、処理適期は秋冬期から雑草の出芽初期であり、伸長期になると効果が劣るが、翌年の出芽は抑制するので、効果が劣るからといって、くり返しや追加の散布はしないこと。
- (3) 一年生イネ科雑草に使用する場合、処理適期は雑草の発生前から雑草生育期(草丈20cm以下)であり、効果完成までに日数を要するので、誤って再散布しないこと。また、広葉雑草が優先する場所では広葉雑草に有効な剤と組み合わせて使用すること。
- (4) 本剤は水によくとけ、降雨時、積雪時、または融雪時には流亡による効果低減のおそれがあるので、使用をさけること。
- (5) 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
- (6) 場合により、造林木の下葉に黄褐変が認められることがあっても、上長成長には影響が見られない。
- (7) 林地の地ごしらえ、または開墾地に使用した場合、散布後3ヶ月以内は樹木の植付け、は種などをさけること。
- (8) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (9) とどまつ、からまつ、ぶなに使用する場合、春夏期には薬害を生じやすいので、造林木の根の吸収が低下する落葉期から土壌が凍結または降雪期までに散布すること。砂質土で薬剤の流亡が生じやすい地域では、所定量の範囲内で多目の薬量で使用すること。
- (10) からまつに使用する場合、透水性不良の土壌では少なめ(3kg)に使用すること。
- (11) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (12) 水源池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当をうけること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- (3) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。